

Fontaine

vol. 37

発行日 2012年10月25日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

狙いは「町活かし」

演劇評論家・文化プロデューサー 河内 厚郎



本来はメジャーとなる可能性を優に秘めているのに、なぜか忘れられているような、そんなヒトや場を掘り起こす作業が好きだ。世界で唯一、その地でこそ真価が発揮できるような企画を立てるのが好きである。目下、大阪出身の劇評家・演出家で鬼才と呼ばれた武智鉄二（1912～1988）の生誕百年を記念する催し（10/9）や、宝塚映画祭（11月下旬）に向けた準備の真最中だが、映画祭のほうは、多くの作品を世に送った撮影所が近年まで宝塚にあったことが世間から忘れられているのを残念に思って、12年前に始めた。

関西は隣り合う町でも個性がことなり、それぞれの「場」に独自の文化資源がある。それらを丹念に掘り起こし、その真価を再発見して「町活かし」に活かすことが私の狙いだから、イベントのためのイベントに終わらせたくはない。自治体が文化イベントをおこなう場合、イベントの成功したいが最終目的ではないと私はかねてから考えてきた。むしろ何事も失敗するより成功するほうがよいに決まっているけれども、町づくりにかける関係者の思い入れやエネルギーを持続させ、その街に文化ソフトを蓄積させていくことが本来の目的だから、九割方成功したように見える

イベントであっても七割程度の成功くらいに認識しておくほうが賢明だと考える。スタッフが達成感に酔ってしまうのが何より怖いし、役所は担当者がよく替わるから、前任者の成功の噂が独り歩きすると、後任者がやりづらくなる。前任者はそれなりによくやったけれども、まだ自分たちにもやれることが残っている—そう思わせるようにして引き継がせていくのが得策だ。町づくり・人づくりは終わりのない仕事なのだから。

70年万博からこの方、「堅苦しいことは言わんとオモロイことやろう」とばかり、突き詰めて物事を考えぬままに一過性の大型イベントをやりたがる街に墮していったのが、大阪ではないだろうか。博覧会・オリンピック・テーマパーク…何でもいからヒトとカネを呼び込みたいと「大阪を元気に」を連呼しているけれども、実態を伴わない、モチベーション不在の元気起こしは、いずれツケが回ってくる。というより、既に十分回ってきているのではないか。

広告代理店が外から持ってくるようなテーマではなく、その地が潜在的に持っている「テーマ」をさらに掘り起こしてみよう。



皮革工芸家

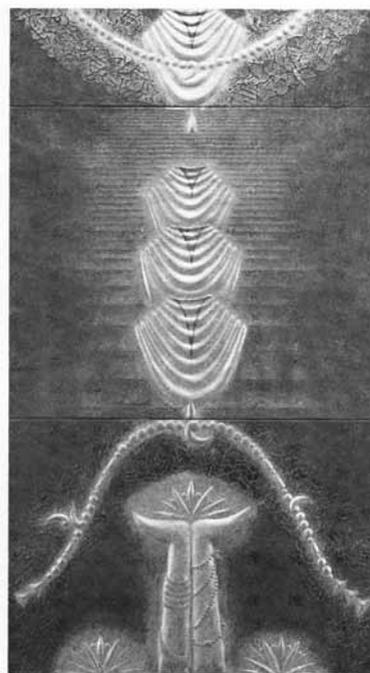
「大久保 婦久子」

大久保婦久子（1919～2000）は、日本には馴染みの薄かった皮革工芸を独自の技術・技法を開拓し造形の可能性を広げて独自の分野をひらき、芸術性の高い作品を数多く世に送り出し高い評価を受けた皮革造形の第一人者です。夫君は、初回の岸和田ゆかりの人々で紹介した洋画家の大久保作次郎です。

大久保婦久子は静岡県下田市に生まれ、1939年女子美術専門学校（現女子美術大学）師範科洋画部を卒業しました。同校3年の夏期講習に革の染色を受講したことが革との出会いと語っています。革の肌合いが好きで、この「革の肌合い」の中に自分のイメージを見出し目に見える形に表現しようと追及し続け、独自の皮革造形の分野を築き上げました。

わが国では皮革工芸は馴染みの薄い分野で優れた先例も無く、独り革と向き合い試行を重ねて、次第に「革の肌合い」を会得しイメージを表現できるようになります。

1958年にイタリア、フランス、中国と皮革工芸を学びに赴き、西欧の優れた皮革工芸に触れて大きな刺激を受けます。求める「革の肌合い」を活かした造形作品とは出会えませんでした。この旅の成果は意欲的な数多くの作品を



祈り/Prayer 1993年(平成4年)
146×80cm

生み出し人々の注目を集めました。70年代には、切り込み、編み込み、張り合わせ、プレスなどあらゆる技術を駆使して表現の内容を膨らませ、その後ますます技術は洗練されイメージを広げスケールの大きい幻想的、神秘的な作品へと発展していきました。

1952年日展初入選。1981年現代工芸美術家協会展で総理大臣賞受賞。1983年日本芸術院賞・恩賜賞受賞。1985年現代工芸美術家協会副会長に就任。1986年日展常務理事に就任。2000年文化勲章を受章、11月3日皇居で親受式に臨みましたが、翌日に体調が悪くなり急死しました。母校の女子美術大学には奨励賞制度の一つとして大久保婦久子賞があり、同大学院美術研究科修士課程の優秀な学生に授与されています。

1992年、岸和田市市制施行70周年記念事業の一つとして、「ゆかりの巨匠展」（大久保作次郎・小倉龜竜・加守田章二の三人展）を開催の際、夫君大久保作次郎の作品「ルパシューズ」「漁婦」の2点を岸和田市に寄贈され、また岸和田市立山滝中学に保管されていた油絵作品「花」を大久保作次郎の作品と鑑定していただきました。

終戦の翌年、「泉州に音楽文化を」と 岸和田でスタート

理事 宮前 勝代



平成18年の秋に、岸和田文化事業協会で、若い演奏家の活動を支援するために新事業「自泉フレッシュコンサート」を行うことになり、それに協力して欲しいとのお話を受けました。

岸和田は私の出生地でもあり、ピアニストで作曲家だった父、近藤達夫が「泉州に音楽文化を」と、終戦の翌年8月22日・23日に岸和田市中央国民学校講堂にて、当時としては画期的な大音楽講習会、演奏会（鑑賞会）を関西を代表するピアニスト金沢孝次郎先生と金沢益孝、和孝、奈津子の各氏と父で、堺歌子先生の協力をも得て開催しました。これを契機に泉州での音楽普及活動をし、千人を超え

る門下生を育てることになりました。その出発の地でもある岸和田で活動できること、若い演奏家の活動の場を作りたいとの積年の思いにも副うことでもあり、喜んで協力させていただくことになり、はや6年になります。

父は、貝塚市民の歌、水間小唄、佐野高等学校や貝塚第二中校歌などを作曲、また泉佐野市の医学・宗教・音楽などの講話の会『観の会』や大阪での緑化運動等多方面で活動しておりました。私も父の志を継ぎ、泉州の文化の発展に尽くしたいと『文化財建造物での室内音楽と造形展』を各地で開催、若い人の活動の礎になればと頑張っています。今後ともよろしくお願ひします。

岸和田おやこ劇場で子どもを見守る

理事 小島 恵



私は岸和田に移り住んで17年になりますが、岸和田おやこ劇場には12年前、二人の娘の子育ての場としてよいのではと考え入会しました。

そこには、公園デビューによくある排他的、支配的な関係はなく、思ったとおり子育てが共有できるすばらしい環境がありました。

また、私自身にとっても、舞台鑑賞や自主活動を通じ、自分らしさを探し、生きていこうとする力を育ててくれる場でもありました。

私の二人の娘は、たくさんのおやこ劇場の関係者に見守られ育ててもらいました。そして今度は、私が皆さんへの恩返しのため、見守る側となり劇場の活動に励んでいます。

さらに、この活動を通じ松本会長と出会いました。会長には、日頃から子どもたちに対する様々な視点での捉え方を教えていただくとともに、この度、岸和田文化事業協会の理事として「子どもの文化への参加を一緒に考えていこう！」とのお誘いを受けました。

次の世代を担っていく子どもたちを健やかに、心豊かに育てていくことは、私たち大人の大切な役割です。文化的な活動を通して岸和田の子どもたちが成長し、より豊かな社会になるような土壌を作っていきたいと思っています。

最後になりましたが、岸和田の文化力がより一層向上するよう、微力ながらお手伝いしていきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第8回 塔原バス停から相川口バス停まで 津田川に沿って塔原街道を歩く



スタート

① 南海バス塔原バス停

①南海バス塔原バス停
スタートは塔原のバス停から。

②八大竜王の燈籠
バス停のすぐ裏にある燈籠。宝仙山と呼ばれた葛城山頂上には旧五ヶ庄(塔原・蕎原・相川・河合・木積)の総社である八大竜王社が鎮座している。これは弘法大師空海が、しるびん大師と雨を祈って勝ちを収め、脇浜の竜王を勧請したのが始まりと伝えられている。

③弥勒寺
浄土宗に属し、毎年8月14日の夕刻、府の無形民俗文化財に指定されている「葛城踊り」が境内で奉納される。元は五ヶ庄の人々が山上で祭神を慰めるために行ったのが始まりとされ、各村がその技を競った。八大竜王は水神のため、俗に「雨乞い踊り」と呼ばれる。現在は塔原町の小学生が踊り子として継承している。

④塔原のおかんど
弥勒寺境内の脇に鳥居があり、そこから約100メートルの急な山道を昇ると岸和田随一のおかんどがある。なお、「おかんど」とは山の神・牛の神・賽の神・道祖神など村や村人を守る神々を祀った「岡堂」のこと。地域によっては「おくんど」とも呼ばれる。

③ 弥勒寺

④ 塔原のおかんど



② 八大竜王の燈籠

⑤ 南海バス塔原口バス停

⑥ 葛城上地区公民館



⑧ 安福寺

⑨ 相川のおかんど



⑦ 八大竜王の燈籠



⑩ 南海バス相川バス停

⑪ 相川ほたる遊歩道



ゴール

⑬ 南海バス相川口バス停



⑫ 道標と地蔵尊

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

かつては葛城山頂を越え、和歌山との交流もあったとされる「塔原街道（現・岸城塔原線）」。今回は津田川沿いの街道を下る、塔原町と相川町の散策コースを紹介します。

理事 藤田保平・齒黒猛夫

⑤南海バス塔原口バス停

⑥葛城上地区公民館

塔原口バス停の近くにある葛城上地区公民館は元東葛城小学校の分校。昭和56年に河合の本校に統合されるまでは塔原と相川の子ども達が通っていた。

⑦八大竜王の燈籠

相川町にある八大竜王の燈籠。

⑧安福寺

浄土宗に属し、村の中心でもある。

⑨相川のおかんど

塔原と違い素朴なおかんど。

⑩南海バス相川バス停

安福寺の路地を出たところにあるバス停。

⑪相川ほたる遊歩道

夏の夜はホタルの乱舞が美しい遊歩道。夏以外でも川沿いの自然が満喫できる。

⑫道標と地藏尊

相川町から大沢町へ通じる道路沿いにある道標と地藏尊。道標には不動明王が彫られている。

⑬南海バス相川口バス停

ゴールの相川口バス停。

スタート地点は「塔原バス停」。公衆トイレのすぐ裏側には「八大竜王」の燈籠があります。元のバス停に戻り、少し下ったところにある広い道を右折すると「弥勒寺」の本堂が見えてきます。そして、本堂の脇には鳥居があり、くぐって山道を登ると「塔原のおかんど」に到着します。この「おかんど」に到着までのまでの距離は長く、しかも急な坂道なので足下と体力に注意が必要でしょう。山道を下つてもとの場所に戻り、岸城塔原線を下っていくと「塔原口バス停」があり、側に「葛城上地区公民館」が建っています。そのまま道なりに進み、「相川バス停」に着くまでの右手に相川の「八大竜王の燈籠」。左側の路地を入り、川を渡って坂を登ると「安福寺」。寺の奥の坂をしばらく登ると「相川のおかんど」が見えてきます。安福寺の前の路地を来た方向とは逆に進み、岸城塔原線に戻って歩くと左手に「相川ほたる遊歩道」が開け、元の道路に戻った目の前の交差点には「道標と地藏尊」が鎮座しています。秋も深まる季節、少し長い距離ですが、立ち止まったときに感じる山間の涼しい風が爽やかに感じられます。ただ、脚力に自信のない方は2回程度に分けての散策が良いかもしれません。また歩くのではなく、サイクリングで巡るのもおすすめです。岸城塔原線の自動車通行量は少ないのですが、その分、車のスピードは速く、信号も横断歩道もないので、ご注意ください。

岸和田あ・ら・が・ら・と

理事 本郷 元子

「突かして～」 ～十五夜のお団子突き～

お月見の夜、子どもたちがお供え団子を突かせてもらう風習があるというので、阿間河滝町の植田修三様宅に寄せていただいた。

縁先にススキに秋の花を添えて活け、傍らに白玉団子と小芋の炊き合わせを鉢に盛ってお月様にお供えし、更に並べてお菓子をたくさん菓子鉢に用意して置いてある。

夕暮れ、子どもたちが三々五々連れ立って、「突かして～」と声を掛けて訪れて来る。「はい、どうぞ。気をつけてね」と、夜道を巡る子供たちに気遣いの声をかける。

「昔はお箸やフォークを持ってお団子や小芋を突いて食べていましたが、お腹が一杯になるので、今はどもお菓子を用意するんです」と話された時、一人の男の子が「いい？」と尋ねて持参したフォークでお団子を突きパクリ。奥様は「お味はどう？」。凶らずも伝統どおりの「団子突き」の様子を見ることが出来た。

生憎の台風で満月を拝することは出来なかったが、連れ立って町内を巡る子どもたちの姿と声を見聞きし、心温まる宵のひと時であった。



Cultural Hot Spot In Kishiwada

きしわだ市民劇 『見上げて町並み ラブ/ディー』を終えて

岸和田市市制施行90周年記念協賛事業、浪切ホール開館10周年記念事業の一環として、岸和田市内の文化施設であるマドカホール、浪切ホール、自泉会館の3館が協力し、出演者を一般から公募して、半年以上の歳月をかけて作り上げた演劇公演が、8月9日(日)にマドカホールで上演されました。当日は、ほぼ満席状態での公演となりました。出演者の内から4名の方(白樫進さん、小牧由香さん、新井川由香さん、数宝奈保さん)に応募した理由や公演を終えての感想をお聞きました。



出演者のみなさん

Q 今回、市民劇に応募した理由は?

- 教師をしている時に、子どもたちに演劇の指導をしていました。退職してから、新しいことにチャレンジしたい、演劇も学びたいと思っていたので、公募の記事を見てこれだと思いました。
- 昔、演劇サークルに所属していましたが、子育てのために活動を止めました。しかし、再度演劇をやりたいという気持ちがあるところに、市民劇の記事を見ました。私の気持ちを理解してくれた家族の応援や協力を得て、10年ぶりに参加しました。
- 演劇に参加した経験はなかったけど、興味はありました。市民劇の記事を見て、岸和田にまつわる話ということで興味を引かれ、応募しました。
- 小学生の時に演劇サークルに入っていました。市民劇の公募の記事を見て、再度舞台に立ちたいと思い、応募しました。

Q 稽古を通して感じた事は?

- 演出家から「演じる方が楽しかったらあかん、お客さんに楽しんでもらうんやで」と言う指導を受けましたが、なかなかそれが出来ませんでした。どうしても感情が入って、お客さんが泣く前に自分が泣いてしまう。演ずることの難しさを感じ、出来ない自分が嫌になりました。でも、演劇が好きだ、演じていて楽しいという気持ちが困難を乗り越えさせてくれました。



練習風景

- 岸和田を舞台にした劇なので岸和田弁を使うことになりました。脚本が大阪弁だったので、“セリフ”を岸和田弁にする時に出演者で確認すると、それぞれの認識が微妙に違うことがわかりました。一口に岸和田弁といっても難しいと感じました。
- ほとんどの出演者が仕事を持っているので、全員揃っての練習があまり出来ませんでした。そのため、セリフの順番が中々頭に入りませんでした。また、お互いの『間』の取り方にも苦労しました。

Q 公演を終えての感想を

- 全員で一つの舞台を作り上げた喜びを感じています。また、今回出会えた仲間との繋がりをこれからも大切にしたいと思っています。
- マドカホールの舞台に立たせていただくという素晴らしい機会を与えていただいたことと、当日観に来ていただいたお客様に感謝しています。
- 3館合同の事業ということで、スタッフに手厚く支えていただいたのでここまで出来たと感謝しています。お世話になった分、自分たちが出来ることで地域に何かお返しをしなければと感じました。
- 岸和田にゆかりのある人を主人公にした全国に通用するような芝居を作って、岸和田市民を元気にするとともに、岸和田のPRが出来るような舞台を皆で作ってみたいと思っています。

.....

公演後に、今回の市民劇の実行委員会は解散しましたが、半年間、この舞台を作り上げてきた出演者の「絆」は決して消えることなく、続いていくと感じました。

岸和田で演劇をする人観る人が益々増え、演劇活動が活発になれば、『文化の薫る町岸和田』の実現に結び付いていくということを感じさせてくれた取材でした。(取材 和田正則)

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

蓄音機を使った昭和初期のレコードコンサートVol.4 平成24年7月20日(金)午後6時30分～

昭和初期にアメリカで製作された蓄音機とSPレコードを使った
コンサートを自泉会館ホールで実施し、8人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 毎回楽しみにしています。
- 昔のレコードは、情緒があっていいですね。
- 小学唱歌も聴かなくなりましたね。
- 今回の選曲はユニークで良かった。



音楽世界旅 vol.8 ペルー編 平成24年7月28日(土)午後2時～

音楽世界旅、第8弾のペルー編、レクチャー・コンサート「ケーナと風のロ
マンズ アンデスに歌う」を実施し、80人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 岸和田に居ながらにして、地球の裏側に旅ができるとは…。とても楽しかった
です。解説もあり、良く分かりました。
- 世界を旅することは中々できません。このコンサートを通じて世界の音楽や文
化に触れることができ、とても嬉しいです。
- 地球の裏側の遠い遠い国の方々と音楽なのに、意外と親しみがあり、哀愁があ
り、本当に地球は広いようで繋がっていることを発見しました。

第31回自泉フレッシュコンサート ～真夏のさわやかコンサート～ 平成24年8月4日(土)午後6時30分～

ピアノとホルンのコンサートを自泉会館ホールで実施し、80人
の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- それぞれの演奏家の個性が表れた素晴らしい演奏だったと思います。
- 暑い最中の演奏会にもかかわらず、一陣の涼風を感じさせる、心和む一時を
過ごすことができました。
- 初めての参加です。ソロのホルンを聴くのは初めてですが、音が素敵で新鮮で
した。癒されました。
- 会場の大きさも良く、身近に生の演奏を聴くことができ、豊かな気持ちになり
ました。



晴ちゃんのおしゃべりコンサート 平成24年9月9日(日)午後2時～

晴雅彦氏のバリトンコンサートを自泉会館ホールで実施し、62人の入
場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 人気の高い晴さんの声、近くで聴かせて頂き幸せな時間でした。ユーモア楽し
くオペラを歌ってくださって親しみ深く感じました。
- 心が落ち込んでいましたが、とっても豊かになりました。晴ちゃんが大好きに
なりました。
- プログラムの内容は変化に富み、楽しく聴かせていただきました。
- 久々に素晴らしいコンサートが聴けたと思います。1時間半が短いぐらいでし
た。

岸和田文化事業協会の事業 Information

第33回自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた
新人演奏家等によるコンサート

日時:平成24年12月15日(土)午後6時半開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 1,200円 (当日各200円増)
会員前売 1,000円

出演者: 鮎川 由梨(ピアノ)
鎌田 明香(ピアノ)
蓮池 詩(ピアノ)
ホワイテ 福原 リエ(ピアノ)
南川 真希・高橋 友香(ピアノ連弾)
石田 知子(ヴァイオリン)



第2回 自泉ジュニア コンサート

オーディションで選ばれた小学生～高校生によるコンサート

日時:平成25年2月23日(土)
午後4時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:無 料



出演者を募集します!

ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器演奏に限ります
(複数名での演奏も可、ただしコーラス等は不可)

♪対象年齢 小学生～高校生

♪参加費 2,000円

♪出演の為にオーディションがあります!

コンサートで演奏する曲(3分～8分程度)をご用意ください。
オーディションでは、3分程度で演奏を中断していただくこと
になります。また、伴奏者が必要な方は各自ご用意ください。

♪オーディションの日程

平成25年2月2日(土) 午後2時～

学年順により演奏。(演奏順は変更できません。)

♪申込方法

氏名・学年・住所・電話FAX番号・演奏曲目(作曲者名)・演奏時間・演奏楽器名をお書きの上、**11月30日(金)**までに自泉会館へお持ちいただくか、下記の住所へ郵送でお申し込みください。
お申込みいただいた方には、12月25日(火)までにオーディションの案内を郵送いたします。

♪申込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

クラブ倶楽部 邦楽コンサート(箏・三絃・尺八)

岸和田冬の陣

日時:平成25年1月19日(土)午後6時半開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 2,500円 (当日各300円増)
会員前売 2,000円

出演者: 池上 眞吾(作曲・歌・三絃・箏)

伊藤 志野(箏)

菊央 雄司(歌・三絃・箏)

小林 鈴純(尺八)

谷 保範(尺八)

西川かをり(十七絃)

ゲスト: 宮前 勝代(ピアノ)

曲目: 春の海(宮城道雄作曲)

邦楽器と管弦楽のための協奏曲(藤井凡大作曲)

邦楽器の為に五重奏(池上眞吾作曲) 他



■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)

会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。
鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して
「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に
賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法

協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は
口座番号 00970—9—28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

Fontaine vol.37

発行:岸和田文化事業協会
発行日:2012年10月25日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・小島栄子
齒黒猛夫・藤田保平・本郷元子

編集後記...

この夏、きしわだ市民劇「見上げて町並みラブソディー」がマド
カホールで上演された。

主催は岸和田市民劇実行委員会。ちらしには顔なじみの方々が並
び、『みんな頑張ってる!応援に行かねば!』と会場へ……。続々
と詰めかける面々は、これまた顔なじみの人々、人々。シンプルな
舞台では、コミカルで人情味溢れる熱演が……。

他分野では地産地消の掛け声が高いが、文化の分野でも地元産出、
地元盛況が元氣な地域を創るのだと痛感した。(紙野)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索